

# ジュニア強化への課題

福岡県ボウリング連盟 山西弘師



ボウリング競技に於けるジュニア強化を考える時、学校体育や部活動として導入している学校が無いに等しく、民間施設であるボウリング場を利用しなければならない点があり、強化の課題以前に競技人口増加が最大の課題だと考える。

そうした中、当連盟は県内の各ボウリング場との関係を密にし、長期休暇を利用してのボウリング場のジュニア教室の開催、ジュニアクラブの設立をお願いし、また近年盛んに行っている健康ボウリング教室のターゲットであるシニア層や主婦のお孫さんやお子さんへ競技ボウリングへの興味を持っていただくよう活動を続けている。

興味を示してくれたジュニアを当連盟に入会させていただき、初めて強化と言われる活動へと移行しているのが現状である。ボウリングの強化だけでなく、実生活にも必要となるマナーの習得や人間形成にも力を入れていくこととなる。また、ボウリング場もジュニア料金を設定して下さる等の負担軽減にご協力いただき、業界一丸となってジュニア強化を行っている。

県内各地のジュニア選手が、所属のボウリング場で自主練習、リーグ戦や月例会へ参加し、レベルアップに努めてくれている。国民体育大会はもちろんのこと、中央競技団体が全日本小学生競技大会、全日本中学選手権大会、全日本高校選手権大会、全国高等学校対抗選手権大会、更には全日本ジュニア強化選手認定会や全日本ユースナショナルチーム選考会も行っており、目標の設定は容易で本県のジュニア強化を進める上で非常に有り難いことである。上記

大会の予選会や連盟主催の福岡県ジュニア選手権大会、九州連合会主催の全九州小中学・高校選手権大会なども開催され、段階的な目標設定も可能となっている。

さて、そのジュニア選手の強化方法は、日頃習っている方が先輩のボウラー、インストラクター、日体協の公認指導員、同公認コーチ、プロボウラーと様々である為、投球フォームを変えると言ったような直接の技術

指導は行わず、「こういったやり方もあるよ。」「もう少し、こう出来たらいいね。」というようなレベルアップの提案をし、選手個人がそれぞれのコーチと相談し、技術を身につけて貰っている。もちろん、連盟とコーチが直接意見交換をし、レベルアップへ向けた共通認識を持つことも大事である。また、近年ジュニア選手の中で両手投げの選手が増えており、両手投げのチャンピオンが誕生するなど、選手、指導者とも知識の向上を強いられている。両手投げは、体への負担も大きく基礎体力の向上や体のケアも非常に重要視されて来ている。

その他の取り組みとしては、成年種別のボウラーとの合同で行う練習会や、成年少年合同でチーム編成し大会へ参加する等、より高度な技術や知識を身につけてレベルアップと実績を残していく。そしてその経験が自信となり強い選手が誕生していくこととなる。

私自身、ジュニア選手を数名育成した経験があるが、ジュニア期は身体的、技術的にはもちろん精神的にも無限に成長する可能性を秘めている反面、無理をさせると一生付きまとう故障へも繋がる恐れもあり、非常に慎重になった記憶がある。更には、コーチングがティーチングにならないよう、選手に自発的に発言させることも非常に大事な事だと考える。

将来有望なジュニア選手を預かり、育ていく上で、強化方法は確立されつつある。

今後は、高体連への加盟、高校総体の種目参加を目標に、学校関係者やご父兄にスポーツボウリングを理解していただく事が、ジュニア強化の最大の課題ではなからうか。